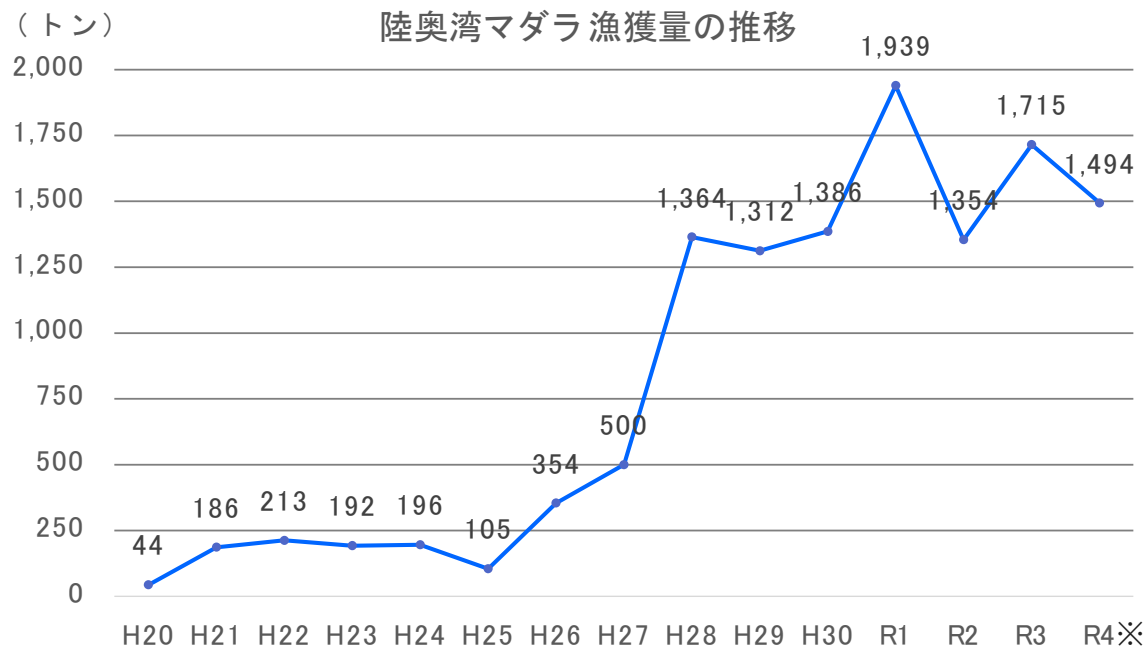


マダラ陸奥湾産卵群の 資源管理の取組について

令和4年11月
水産庁

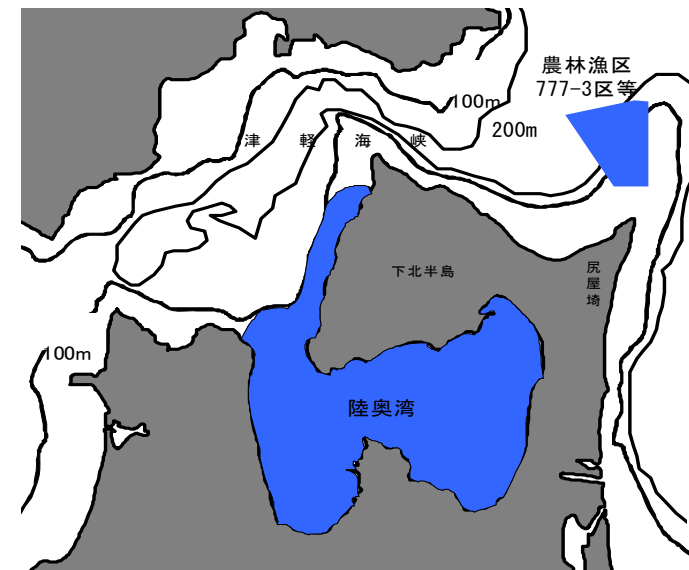
1. 陸奥湾のマダラ漁獲量

- 陸奥湾におけるマダラの漁獲量は、資源回復計画策定後は順調に回復。
- 平成28年以降は、1,300トン以上の漁獲量を維持。



※ 令和4年は、1月～6月の漁獲量（速報値）

マダラ陸奥湾産卵群の資源管理の取組対象海域概要図



出典：マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画

（補足）資源回復計画：資源の回復を図り、漁業経営の安定や水産物の安定供給に役立てるため、関係する漁業関係者、研究機関、都道府県、国が一体となって必要な対策を計画的、総合的に実施する取組（～H23年度）。H24年度以降、それまでの取組は、資源管理指針・資源管理計画体制の下で実施。

2. 資源管理の取組状況

- 青森県の資源管理指針及び沖底の資源管理計画等において取組措置を明記。
- 資源回復計画時に実施していた小型魚の再放流などの取組を引き続き実施。

(1) 漁獲努力量の削減措置【資源管理指針・計画】

放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流

関係漁業種類

- ・ 小型定置網漁業及び底建網漁業（陸奥湾地区）
- ・ 沖合底びき網漁業（青森県太平洋地区）
（青森県尻屋崎の北方海域（農林漁区777-3区及び777-6区））

(2) 資源の積極的培養措置【資源管理指針】

マダラの種苗放流（標識放流）



標識魚を放流する漁協職員

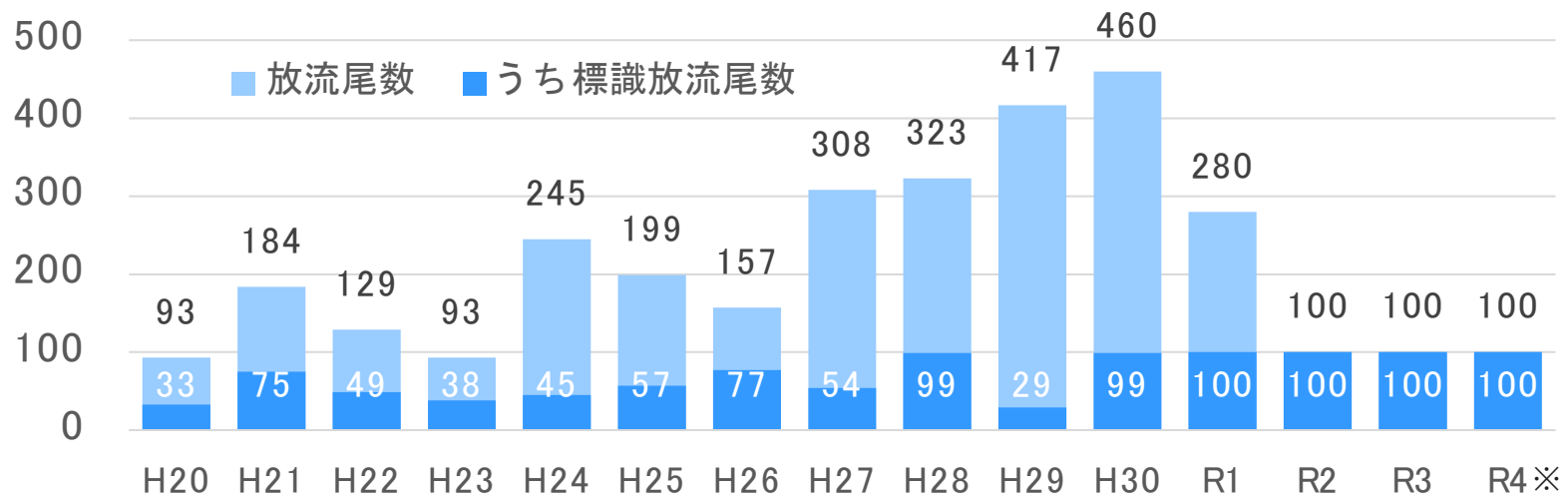


標識魚を漁獲した際に
連絡を求めるチラシ
（関係機関により作成）

3. 資源管理の実施状況（漁獲努力量の削減措置）

○ 放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流

（尾） 放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流実績（脇野沢村漁協）



※ 令和4年は、1月～10月の実績（速報値）



図(左) 平成20年以降に再放流した放卵・放精後マダラ親魚の再捕海域と再捕尾数
（地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所）

4. 資源管理の実施状況（資源の積極的培養措置）

○ マダラの種苗放流（標識放流）

（単位：千尾）

年次	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
種苗放流尾数	15	25	52	10	0.2	17	9	10	0.3	23	20	3
うち標識放流尾数	14	25	52	7	0.2	10	9	10	0	3	0	0

※ 陸奥湾のマダラ資源量が増加傾向にある状況等を踏まえ、令和2年度及び3年度の実施は中止。

放流年	標識部位	放流尾数 (百尾)	再捕年									再捕計 (尾)	再捕率 (%)
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
H20	右	135	2	6	1							9	0.07
H21	左	247		3	6	1						10	0.04
H22	右	519			6	1	2	1				10	0.02
H23	左	69			2	5	7	2	2			18	0.26
H24	右	2				1						1	0.43
H25	左	99					2	4	3			9	0.09
H26	右	86					5	9	9	1	3	27	0.31
H27	左	95						2	2			4	0.04
H28	右	0										0	-
H29	左	33								1	1	2	0.06
H30		0											
R1		0											
R2		0											
R3		0											
	左右不明					2		3	2			7	-
	合計		2	9	15	8	18	18	19	4	4	97	-

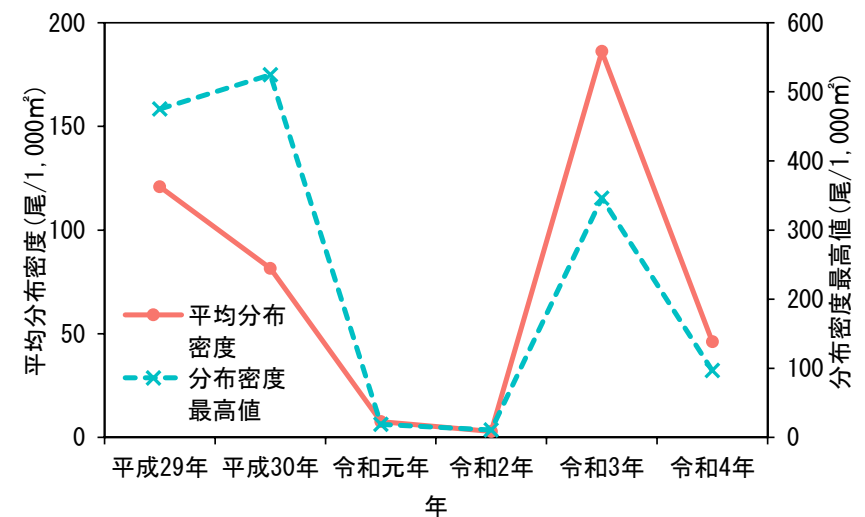
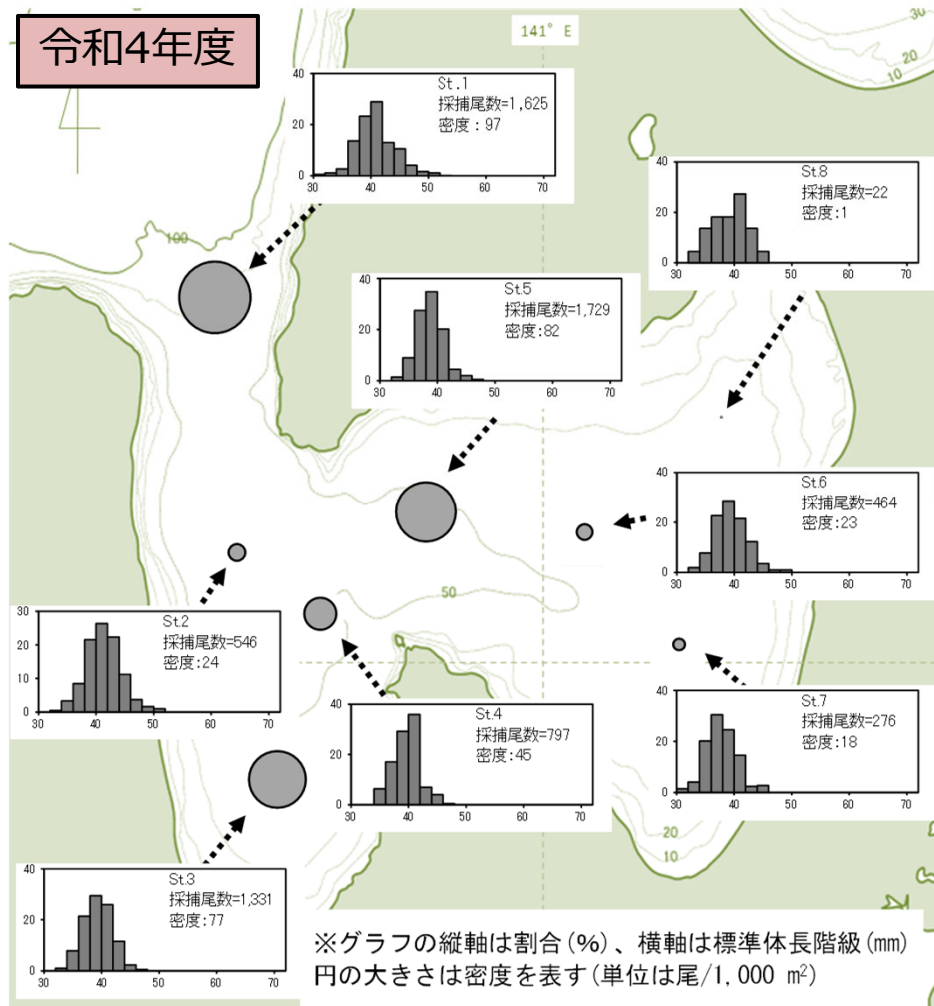
図(左) 標識放流の陸奥湾での再捕実績
(地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所)

再捕年:漁期年(9月～翌年8月)※表記は9月が含まれる年

累積再捕率(%):ある年の放流群の累積再捕尾数/ある年の標識放流尾数×100(%)

5. 陸奥湾マダラ稚魚分布調査について

- 青森県産業技術センターは、平成29年度以降、毎年5月中旬に陸奥湾内（8地点）でマダラ稚魚の分布密度調査を実施。



図(左) 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と体長組成結果

図(上) 5月の陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化 (H29年~R4年)
 (地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所)